

## 2030 SDGs カードゲーム



2030 SDGs 2030 カードゲームは、「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「それがあることによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解するゲームです。社内で公認ファシリテーターを養成し、社内研修又は地域の人々にも楽しみながらSDGsの本質を理解していただくためにカードゲーム研修を開催しています。

4 質の高い教育を  
みんなに



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



## 近くの山の木で家をつくる運動 「大黒柱伐採ツアー」



人工林の荒廃をストップさせるため、「香川県産ひのき」が育つ仲南町（現まんのう町）の森で、「大黒柱伐採ツアー」を開催しています。讃岐山脈の中腹にある森は、県下では数少ない専門林業家さんが管理している美しい森で、ツアーには家を新築するご家族だけでなく一般見学者も参加でき、香川の森林や林業の現状に触れながら、新しい家の大黒柱となる木を伐採します。

均等に太陽の光がふりそそぐよう、丁寧に間伐しながら手入れされた山に入り、目の前で樹齢80年ほどのひのきが伐採される時などは、その迫力に大歓声があがります。

林業家、製材、大工さん...多くの人と関わることで、自分の家が近くの山につながっているという実感が得られる貴重な機会でもあります。そしてこの活動を通して、山に光を届けることができると思っています。



15 陸の豊かさも  
守ろう



## 鎮守の森Project



鎮守の森Projectは、その土地にあるべき「ふるさとの木」を植えて森をつくるという取り組みです。1956年、ドイツの植物学者ラインホルト・チュクセン教授により提唱され、その後弟子である宮脇昭氏が世界で実践し、大きな成果をあげています。

四国の潜在自然植生の木は「シイ、タブ、カシ」が主役です。土地本来の木々は根がまっすぐ張り、地震や豪雨でも地面が崩れません。健全な生態系があってはじめて、健全な社会や経済が形成されます。潜在自然植生の木を植えることは、人間や動物、地球のあらゆるいのちを守ることです。

100周年記念事業の植樹祭では、宮脇昭氏の指導のもと潜在自然植生の苗木を、54種類5,300本植樹しました。その後も途切れることなく、継続して取り組んでいます。

